

令和6年度 都立武蔵野北高校における教科指導の重点

教科	重点課題	取組	発展的取組
国語	「読むこと」の指導の充実 「話すこと・聞くこと」の指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会で定期考査や模試の分析結果を共有 ・構成や叙述などに基づいて「精査・解釈」する能力を高めるため、多読・速読の機会の提供 ・ICTも活用しながら、話し合いを効果的に進めるための校内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題図書を提示しての読書指導の充実とビブリオバトル等の学年実施 ・ICTを活用した話し合い活動の充実を目指し、指導方法について教科内での研修実施
地歴公民	「進学指導推進校」としての大学受験への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会において模試結果の分析・課題を共有 ・夏季講習等で生徒の志望校に応じた講座の開設 ・授業内外において、身に付けた「知識」を適切に「表現」する機会を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド動画利用による反転学習の実施 ・デジタル新聞を活用し、時事問題への関心を高め、思考を深化させる授業の実施 ・『日本史通信』等の発行による受験情報の提供と学習指針の提示
数学	数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を充実させ、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるようにする ・生徒一人一人が目的意識を持ち、主体的に問題を発見したり解決したりする数学的活動を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会の事象などを数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する活動を実施する
理科	数理的な「探究の過程」を踏まえた学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・実験観察を重視して、結果を数理的に分析し、論理的思考から根拠を持って、考察する力をつける教材の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の研究室訪問や他の研究会に参加することも含め、探究の方法やレポート作成について指導する ・授業内外での実験観察による探究活動を実施する
英語	技能統合のための文法指導	<ul style="list-style-type: none"> ・4技能で活かせる文法指導 ・リテリングや要約活動の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン英会話の活用による実践練習 ・ALTやJETによるさまざまな言語活動を通じての実践練習
保健体育	【体育】 自己の体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年間授業計画の共有 ・技能の向上だけでなく、自身の体力に応じた取組みができる授業展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元でICT機器を活用して、自他のフォームを比較し、教え合い、アクティブラーニングを行う ・ICTを活用した活動の充実を目指し、指導方法について教科内での研修実施
	【保健】 健康に関する正しい知識を学び「実践力」を身に付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・年間授業計画の共有 ・各単元で正しい知識と最新の情報を伝え、自身や家族の健康課題と結び付けるような授業展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとにテーマを決め、課題解決や意見をグループ発表する ・ICTを活用した活動の充実を目指し、指導方法について教科内での研修実施
家庭科	「課題解決」につなげる実習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間授業内容に実習の時間を多く取り入れる ・知識を実生活で生かせるワーク教材を組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域でネット使用により、実際自分の場合のケースとしてアクティブラーニングを行う
情報	「課題解決」につなげる実習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書選定時に課題解決型実習を多く掲載しているものを選定 ・CMSを利用した民間補助教材を導入し、社会課題の解決を題材とした実習教材を導入 ・情報Ⅰ各単元の最終課題で、グループ(協働学習)による探究的な実習を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラミングやデータ活用などの分野で活躍する専門家を招聘し、情報で学ぶ技術の実社会での活用について学習 ・アンケートを実施し、結果からデータ分析を行い問題解決を図り、今後の学校生活に役立てる